

ね。ああいうところは条例を逆に変えてもらったんですね。その意味ではご検討いただいた方がいいかなというふうに思います。別にこの機関をやめた方がいいのではないかなということは言いませんので、これで質問を終わりたいと思います。

大沼 久委員長 次に、順位3番、議席番号9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 私が質問をしたいと考えていることは2点でございます。かゆいところに手の届く答弁をしていただくと、実に簡単に終わりますんで、その点お願いしておきたいと思います。

まず、9月の一般質問で企画調整課長にいろいろくたはあったんですが、企画調整課の中で文書の不要の文書、あるいは不急な文書の整理をなさったということがありましたねということについて、あなたは何も答弁しなかった。ですので、そのことについてきょうはお聞きをしまいたいと思います。やっぱり聞いていることに端的に答えてほしいんですね。

それで平成11年6月に私と大道寺議員がISOの14001、いわゆる環境の国際規格であるこの認証取得をとるべきでないかというふうに申し上げてまいりました。13年3月の議会で市長が正式にその意思表示をされているわけですが、なぜこれをとるべきだと申し上げましたのかそれをもう一度簡単に振り返ってみますと、直接的な取り組みとしては一つには環境の世紀と言われるように環境に優しいまちづくりを進めていくべきだということが第一点ですよ。

それから、この取り組みをすることによって、このその取り組みの過程の意識の中から、いわゆる仕事の改善の意識が芽生えていくはずだと。芽生えなければこんなことやっている必要がないんですね。芽生えていくはずだと、必ず。その芽生えますと、自分のやっている仕事を見直すという点において、例えば今これから質問

するようなことを自然発生的に私は出てくるのではないかということを期待しているわけですよ。ですから、その取り組むべきだと申し上げてきました。

それから、13年4月から行財政改革取り組みましたね、5カ年計画で。これある意味では聖域のない行革でありますから、市民に対しても等しく我慢を求めてきたわけですよ。我慢を求めてきてもまちづくりは停滞してはいけません。だから逆な言い方をすると、金がないことを逆手にとったまちづくりを進めていくべきだということで提案してきたわけですね。

つまり環境だって面倒くさいことは考える必要はないんで、例えばごみという点におきますと、毎日毎日山のようなごみが発生しますので、そのごみを媒体にした取り組みをすることは、市民がだれでも等しくできる、内容であると。だからこの5カ年間に於いて日本に名だたる環境都市長井をつくっていくことこそが、この行革の中におけるまちづくりの一番いいやり方ではないかということが期待できましたので、私は申し上げてきたはずですよ。会議録を振り返ってみますとそれしか言っていないですから、何度も何度もですね。

その後、確かにポイ捨条例であるとか、ダイオキシンの被害から市民を守る条例であるとか、安心安全まちづくり条例であるとか、いろんな条例がつけられまして、今あるわけですが、それよりも何よりもこの環境都市を予見するかなような不伐の森条例が先人によってつけられているわけです。そういった背景がまずあると。

私はこの14001の取り組みの延長として、直接的なことじゃなくてですよ、その取り組みを通して、その延長として行革の改善が進んでいかなければならないと。進まなければ進むようにやらなきゃいけない。それが皆さん、管理職の任務ですよ。仕事じゃなくて任務なんですけ

れどね。何もわからないところに、いわゆるわかるような手順を示すことが任務ですよ。仕事と任務は違いますんでね。そのことを言ってきたつもりです。

取り組みが進めば役所の中は変わったというふうには私はなってくるんだらうと思っています。これから大きく変わるのかどうかですけども。

例えば私はたびたび福祉事務所の方におじゃましますが、そこにいろんな方が相談に来られます。しかしその相談をしようにも、後ろの方に小さい小部屋みたいなものがありますよ、ありますが、そのそういう部屋がないじゃないですか、スペースが、まずね。それから会議室だってないわけでしょう。例えば整理整頓であるとか、5S運動であるとか、文書のファイリングシステムだとか、識別管理だとかいろんな取り組みをしてみますと、その程度のスペースを捻出することは十分可能だというふうには私は言ってきました。そういう取り組みは民間企業において数え切れないほど事例があります。それを学ぶべきだと申し上げてまいりました。なぜそういう改善改革の芽が育ってこないのかということは非常に私は疑問に思っていますので、その点についてまず企画調整課長に考えをお聞きしたいと思います。

大沼 久委員長 中井晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 ISOにつきましては当然その取得の規格要件がございます。ISOを管理しております事務局といたしましては、ISOの基準に基づいた事務の取り組みをするというのが基本になっておりますので、その企画要件にあわせました対応をさせていただいております。

以前も説明をさせていただいておりますけれども、現在の事務の中で環境に負荷を与えているものはどういうものがあるかと、その環境の負荷の大きい順に対策を講じるというのが基本

になっておりますので、そういった取り組みをしております。なお、3カ年計画で新しく計画を少しずつ更新をしていきますので、いずれ蒲生委員がおっしゃられましたような大きい視点での環境に対する取り組みというのは少しずつ導入されるというふうには考えております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 この取り組みというのは同じところをぐるぐる回っているのではなくて、この少しずつスパイラルアップしていくわけですよ。これはプラン・ドゥ・チェック・アクションというやり方をたどっていくとそうやっていくはずなんです。このPDCAを回すという思想が定着してまいりますと、自分のやっている仕事はこれでいいのかというまずその視点から見つめていくことになるんですよ。そうすると今よりももっとやりやすく、資質の高い仕事をするためにはどうしたらいいかというふうには考え出します。それを実際、ドゥ、やってみますよね、やれば必ずその結果が出ますから、その検証を行います。成果が出ればその成果を評価し、あるいは出なければなぜそれが出なかったかということで反省をします。その繰り返しはPDCAなわけですよ。

そういう思想を徹底して進めていくということになりますと、例えば環境の負荷なんていうことを言えばそれは省資源、省エネルギーということもありますから、ペーパーレス、一つの思想からいっても当然その今の文書のファイルの仕方でいいのかというふうには結びついていくものだと私は必然的に思っているわけなんです。今の取り組みの過程ではそこには至っていないということなんですか。

大沼 久委員長 中井晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 今、国の方でも電子政府化を進めております。文書につきましても電子ファイルで流れてくる文書が次第にふえてきております。電算関係のメーカーにつきまして

+

も、電子文書のファイリングシステム等を提案したりというのは出てまいりましたので、企画といたしましてもそういった提案書をお聞きしたりという機会がふえてきております。

いずれ紙ベースの対応ではなく、電子ファイルというふうになるものであるというふうに思っております。ただ、電子ファイルにつきましても分類が明確にならないまま、ただ保存しましたのでは検索もできませんし、議員がおっしゃりますように事務的に効率化ができませんので、当然、ファイリングシステムなりの導入がいずれ必要になってくるだろうというふうに考えております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 じゃあまず一番最初、冒頭言ったことをお聞きしますが、企画調整課の中で、前、ファイル別の整理をしたことがあるということでしたね。その結果、どうでしたか。

大沼 久委員長 中井晃企画調整課長。

+ 中井 晃企画調整課長 キャビネを整理するきっかけとなりましたのは、余りにもその書類が膨大になりまして、キャビネの中が煩雑になってきているというのがありまして、試しにということで整理をお願いしました。確かにキャビネの中は非常に整理整頓されるというような状況はできましたけれども、それではキャビネが一つ二つ撤去できるほど整理できたかということ、そこまでは文書を削減できなかったというのは実際でございました。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 その経過について文言的な表現なんでわからないんですよ。どの程度の対象のファイルを整理して、どのくらい減ったんですか。具体的なその数字で説明してくださいよ。例えばこれくらいあったのが半分になったとか、あるでしょう、だれ見たってわかるような話が。

大沼 久委員長 中井晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 企画係のキャビネを中心に整理をしてもらいましたけれども、私が見ますと4分の1から多いところは3分の1ぐらいの文書が整理できたんじゃないかという感じでした。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 つまりそういうことなんですよ。多分、それは不要なファイル物、それから不急、急がないファイル物。例えば1年に1回しか見る機会があるかないかというやつ。それから毎日やっぱり手元に置いておかなければいけないものと、このランクをつければ、あると思うんですよ。だから、まず廃棄してもいいものがあるということは、要らないものがあるということですよ。だからそれは課によって違うことはわかります。法的に保存期間が義務づけられているもの。だとしてもそれがその手元に置かなければいけない理由なんて何もないでしょう。どこにどういうものがあるかということさえははっきりわかっていて、求められたら30秒以内にすぐ出せばどこにあったっていいじゃないですか。そういうことを考えてまいりますと、自分の手元に置いておくべきファイル物というのは限定されてくると思うんですよ。そういう取り組みというのは結果としてスペースができてきたり、いろんな相乗効果が生まれてくるんじゃないかと私は思っております。そういうふうには感じません。

大沼 久委員長 中井晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 基本的にキャビネットの中には私的な文書は入っておりませんで、公的な文書だけのつづりになっております。当然、公的な文書を引き出しまして、それを見るという場合はキャビネの中から取り出すという形になります。個人が別にファイルしておりますのは、いろんなその制度の勉強でありますとか、自分の知識を高めるということで、個人的にその勉強した部分のファイルといったものは一部

あるかと思いますが、キャビネの中は公的書類以外で占領されるというのはほとんどありませんので、今のところうまく整理をすることによって個人の書類をなくせるかという、ちょっと企画の中では難しいというような感じはしております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 個人の書類をなくせなんて私はただの一点も言っていませんよね。区分けをすべきでないかと。分類をすべきでないかと申し上げているんであって、個人のファイルは必要ですよ。それは例えばプライベートファイルということで整理できると思うんですよね。だからプライベートファイルのその定義もつけなきゃいけない。どういうものをプライベートファイルというか、センターファイルというのは何を称して言うかと、その定義も必要ですよ。当然、ファイルの方法も必要ですよ。

このペーパーレスの思想からいって、山形県では紙なし会議をやっているというふうについて新聞で聞いたことがあるんですが、それはご存じですか。

大沼 久委員長 中井晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 私が出席した会議ではまだそういうところには出席はしたことはございません。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 検討してはどうですか、紙なし会議、紙のない会議。例えば説明するときどういう形で説明するか。今は常識的にというか、もう定例的という、どういうふうに言いたいんですかね、当然当たり前というふうはこの資料が配られますよね。これをやっぱり配らなくて済む方法を考えるべきだというふう思うんですよね。それがものによってはできないケースありますよね、もちろん。でもかなりそれができるんじゃないかと。例えば文書で各課に回覧するよりはメーリングシステムを使

えばそれは要らないですよ、そのように。

例えばプロジェクターを使ってその一つの資料を説明すれば要らないですよ。いろんな方法を編み出せばこの紙なし会議というのはできるのではないかと。そうなればペーパーレスの思想にも拍車がかかってくるんじゃないかというふうに思いますので、その場面に遭遇したこともないということから、ぜひ検討してみたい、試験的にですね。例えば企画調整課の中で庁内の会議をする際に、そういったことを試みてはどうかと思いますが、いかがですか。

大沼 久委員長 中井晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 今、庁内文書等でらいねっとを使って各課に周知できるものはできるだけそういうふうにしていただいております、以前のような単なる会議の案内書類が不用意に回るというのは大分少なくなっているという状況がございます。

あと、企画調整課の会議を考えますと、電算の管理業務につきまして、毎月定例的な会議を行っております。その中でプロジェクターを使いまして説明をしておりますけれども、現在はおプリンターをした紙も配付をしておりますので、それらにつきましてできるだけ削減をするというようなことを考えたいというふうに思っております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 仕事の性格上、これがすべて私が言うようなことができるとは思いますが、例えば企画調整課の中に何人いらっしゃるか、仮に20人いたとすれば、20人の分の机を全部そろえなければいけないという発想は今までの発想ですよ。20人分いてもそれをみんなで共用し合う、共用するという発想の転換をすれば、少なくとも済むんですよ。そういうような発想の転換をすることによって、私はスペースは生まれてくるんじゃないかと思えます。私のところのフォーラム21の中で、真剣

+

に議論したことがあるんですよ、このテーマについて。恐らくかなりのスペースが出てくるんだろうと、徹底してやれば。このスペースもない、会議室もないという状況をやっぱり何とかしようと、考慮すればそういう発想が出てくるんじゃないかなというふうに思うんですよ。

どうですかといったって、はあ、できますなんて答弁にならないと思いますから、それは要らないですけども、例えば助役にお尋ねしますが、例えば隣の課と課、総務課があって、市民課があって、こうあるわけですけども、私はその平準化、人数、職員の配置についても平準化をしなければいけないというふうに申し上げてまいりました。隣の課とのやっぱりオープンドア方式を心がけまして、ひとつ隣の課も仕事もできるというふうに、いわゆる職務の多能効果ですよ、これやるように進めていくというようなことを考えますと、例えばまだまだこれからの課題でしょうけれども、時差の出勤体系であったり、あるいはまたマンパワーの配置をマックスにあわせないで平準化したものに合わせていくというようなことをしますと、当然、それだけの人数も要らないし、スペースも要らないと、このようになってまいりますよね。そういったことをひとつまじめに、まじめにやっているんでしょうけれど、まじめに、それよりまじめに検討してみたらどうかと思うんですが、いかがですかね、助役。

大沼 久委員長 長谷部宇一助役。

長谷部宇一助役 建物自体はいわゆるオープンフロアですので、そうなれば課と課は行き来は自由にできるわけですけども、今は完全に独立しているという形で調整ができないということありますので、やっぱり行政のサービスを向上するためにはやっぱりそういった課と課の調整ができるような形にまず持っていくことがまず大事なかなという感じがします。その後でいろんなさっきご指摘あったフレックスタイムとか、

そういったものを活用しながら適切な人員管理を行うということが大事なかなと思っております。大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 市長が参加されておりますのは改革派自治体市町村サミットですが、実は7月18日に地域自立シンポジウムという、これは第6回になっているようですがあったんです。私もこれちょっと気になっていたものですから、いろいろ見てきたわけですが、いろんな提案がなされていて、これは一つの考え方かなというふうに思っております。

例えば、モノの自立、カネの自立、ヒトの自立、チエの自立、コトの自立、地域自立の集団というようなこと例えば、大量生産から地産地消への転換、大量流通から産消直結への転換、仮想経済から地域通貨への転換、工業経済から情報経済への転換、情報消費から情報創造への転換、官制維持から里親維持への転換、普遍思考から伝統回復への転換、大量廃棄から高度循環への転換、環境開発から環境回復への転換、あるいは規模維持から交流促進への転換、過疎維持から集落撤退への転換、町村合併から生命地域への転換などというようなことで、今、いろんな議論がなされているようです。このことについて詳しく言っていると時間がありませんから言いませんけれども、これは市長にお聞きしますけれども、長井市としても自立計画のプログラムをこれから進めていこうとしている矢先でありますので、私がこの再三申し上げております環境の国際規格の取得というのは、自立計画を進めるための一つのツールだと思うんです。この活動を通して、自立計画に寄与できなければ何もならないのではないかなというふうに思うんですが、やはりいろんな活動を通して、こういうふうにしたらどうだ、あのようにしたらどうだという提案が職員の皆さんから出てこなければいけない。もちろん管理職の皆さんもそうです。言われたことを渋々やっているよう

では、これは管理職と言えませんので、やはりさまざまな提案がなされて、それを具体的に、真剣に検討する機会がなければ、企画調整課長の答弁みたいになってくるんです。そうではなくて、こういったことを、やはり考えていくべきではないかなと、提案制度を。提案をする、提案で出てきたものを真剣に考える。実施できるものは実施する。効果額を把握できたものはちゃんとそれなりの報償を与える。やればやっただけの評価が得られるというふうにしていくべきだと思うんですが、市長の考えをお聞かせください。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 基本的にはその提案によって、その提案を議論しながら前に進むということは、これは絶対に必要だというふうに思います。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 市長からそういうようなことがありましたので、ぜひ提案制度について改めて考えてみていただきたいというふうに思っています。

私らも言ってみれば、今よりよくするためにこうした方がいいのではないかと、ああした方がいいのではないかとということを何度も繰り返し申し上げてきておるわけですから、こういうのも提案ですよ。

太田市を初め多くの自治体については、環境の14001の認証取得というのは常識的になっているんですが、それとあわせて品質の国際規格であります9000シリーズを取得する動きが今、顕著になってきております。これはどういう背景がそういうことをもたらしめているというふうに市長はお考えでしょうか。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 ISOの14001というのは環境政策に総合的に取り組むと。それから、環境負荷を低減すると、こういうことですね。

ISO9001というのは、主にやはり製品の品質保証というふうには私理解をしております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 製品の品質保証、製品というか、役所の中における製品は何なんでしょうか。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 市民の皆さんに対するサービスなり、支援なりということだろうと思います。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 市長の今、答弁ありましたまさにそのとおりでと思うんです。窓口例えば、職員が市民に接する場合の資質をどれだけ高めていくかということに私は直結していると思うんです。まだ、この品質のシリーズをとって、どのように活用してきたかと細かく私はまだ検討しておりませんが、太田市あたりにお邪魔したときは、やはりISOの14001と同じように、これを目指すことによって職員の意識が大きく変わるんだと、いや変わらなければいけないんだと。そのためにやっているんだというような担当者のお話でした。長井市もやれということをお願いしているのではありませんけれども、どちらでもいいわけですが、いわゆる仕事の質を高めるということに結びつけば、ぜひそういったことをやっていきませんか、この自立プログラムがなかなか前に進んでいかないということになりかねませんので、ぜひお願いしたいというふうに思います。

助役にお尋ねしますが、長井市も13年度から行財政改革というものを取り組んでまいりまして、例えば人件費においては29億6,000万から25億8,000万に減らしたいというその事実がございます。この事実は何といてもはっきりしたものですから。私もそのほかの努力については、ああ、努力してきたんだとい

+

うふうに思います。と思いますが、まだまだ足りないということはいつも申し上げているとおりでありますけれども、自立するということは、やはりもっともっと改革を加速させていかなければいけない。例えば、自立計画を5年の中でつくればいいというものではなくなったわけですが、今度は。とにかく早くそれを立ち上げて、そして進めなければいけないというように思っておりますので、この改革改善の手法を加速させるために、もっと庁内の行革推進本部なりで具体的な検討がなされていいのではないかと。最近どういう取り組みをなさっているのか全然経過報告がありませんので、しているのか、していないのかもわからないんですけれども、そういったことについて助役はどうお考えですか。

大沼 久委員長 長谷部宇一助役。

長谷部宇一助役 今、進めている行革につきましては、いわゆる財政再建ということを中心基準に置いてやってきたわけでございますけれども、蒲生委員からもご指摘がありましたように、その計画をまず全部やるのが、まず再建の第一歩だということでありましたので、それに基づいて今、必至になってやっているという状況でございます。

特に、今年度については大きな山場に差しかかっておりまして、それを乗り越えるために今、頑張っているという状況であります。

自立計画につきましても、一般質問で市長がお答えしましたように、来年度中になるべく早くそれを策定しながら、さらにその計画に基づいて推進をするという形にぜひやっていきたいと思っております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 ぜひそれはそうですね。進めていただくようお願いをしておきたいと思っております。

25分ぐらいまでですから、次の質問に移り

ます。スウィングガールズの話については一般質問でも申し上げましたので、その後、どういふ今現在、展開になっているかも含めて、若干ご説明を申し上げて、お答えをいただきたいというふうに考えております。

11日からロードショー。そのロードショーをされた劇場の数をもう一度調べたんですが167館なんですよ。166館だったり、川西町は160館と書いてあったり、169館と言われてたりしておりますけれども、よく数えて見ますと167館のようです。

それはともかくとして、その公開初日のまだ次の日、興業見通しというのが示されまして、いわゆるきのう最後のドラマになりましたウォーターボーイズ2というのが、そのもとになったウォーターボーイズが9億8,000万円の興業収入だったんですね。これは99館の同時上映でした。このスウィングガールズはその時点で15億の興業収入が見込まれているというお話で、これはすごいことになっているんだなと私は正直思ったところでございます。

しかし、どうもきのうとか、おとといあたりの情報によりますと、15億が17億になり、20億は確実だというふうになっているんです。だから、すごいことなんです。名実ともに。

その20億をどのぐらいの期間をロードショーをするかにもよりましようが、1館あたりの興業収入、これを割り算しますとすごい金額になってはじき出されます。事実、山形のソラリスでは初日だけで3,300人ということで、全国1の観客動員を誇ったということですね。

20日の日、さくらんぼテレビで実際フジテレビの朝の番組に生出演されておりましたけれども、今の情報ですとテレビドラマ化はまず間違いないだろうとこういふふうに言われているようであります。できればテレビドラマ化になって、そして一つの映画が、あるい

はまたそれを支えた人たちが、赤字路線を黒字化したと。NHKのプロジェクトXみたいな形で、出てくればすごいことになるのではないかな、すごいだろうなというふうに私は夢見て以下いろいろお聞きをしてみたいというふうに考えております。

今、映画は大成功です。2004年度が一番のヒット作になるだろうと言われております。テレビドラマ化もまず間違いないだろうと言われております。しかし、このテレビドラマ化は問題がロケ地がどこになるかということなんです。映画ではこの置賜地方がロケ地になりましたけれども、テレビドラマ化でこの置賜地方がロケの対象になるとは絶対言えないわけです。それは何十人もスタッフ、俳優の皆さんが、一々長井まで来る、あるいは置賜地方まで移動してくるといって、このコストがばかにならないわけです。できるだけ近くで撮りたいというような意向になってまいりますと、せっかくのテレビドラマがフラワー長井線の後押しに役立っていかないということになりかねないわけです。ですから、今がやはり大事なんだろうなというふうに考えます。

8月27日に市長も試写会に行かれまして、そして、スウィングガールズを支援する置賜地域の懇談会というように参加されたわけです。そのときに、フジテレビのプロデューサーである関口大輔さん、この方のおじいさんは畔藤の出身なんです。そして、制作をした、担当したアルタミラピクチャーズの専務、小形雄二というのは、これは白鷹町の畔藤の出身なんです。お二人の実家は300メートルしか離れていないというお話でした。この小形雄二専務などと懇談をした際に、ぜひテレビドラマ化を向けた話の中で、まだ公開前であり、テレビドラマ化については難しい問題がありますが、それを跳ね返す地元の盛り上がり

不可欠ですと。白鷹町は私のおじいちゃんの町、何らかの貢献をしたいというふうに関口プロデューサーが語っているというふうに新聞記事もありましたし、事実そのとおりだろうと思います。

こういった動きが現在ありまして、できるだけ多くの皆さんにこの映画を見ていただくこと、まず。そして、見ていただいて、このフラワー長井線についてもいろいろ考えてもらおうというのが広い浅いネットワークということで、スウィングガールズ応援隊というホームページの立ち上げになりまして、それが今度はスウィングガールズの公式サイトにリンクが張られているんですけども、リンクが張られたものですから、今アクセス数が殺到しております。こういう状況に今あるわけですが、市長としては今どういう感想をお持ちですか。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 やはりこの矢口監督という時代を非常に的確にとらえた監督の企画があり、ウォーターボーイズだって男性があれをやるなんていうのはおかしい、それが当たるんですから。あの女生徒がジャズバンドをだんだんやっっていくというような内容の奇抜さ、それからおもしろさ、それから音楽番組としても、演奏者が全部自前であれをやっているというところの新鮮さ。それに非常にやはりギャグ等の笑いがありまして、これはやはり2度、3度見てみたいなと。2度見てみたいな、3度見てみたいな。例えば、映画でも見てみたい、テレビに出てきたらテレビでも見てみたい、本も買ってみたいとかというような、やはりヒットしそうだなという感じを持ってまいりましたし、これはやはり長井線もあることだし、これは必至になって応援というか、取り組まなければいけないと。

現に前売り等についても、川西も一生懸命、あるいは白鷹はもっとそうでしょうけれども、



300枚というのは、蒲生議員も100枚ほどお売りになったそうですが、市役所でも350枚とか、商工会議所とかいろんな面で500枚前売りでも出ている。そして、初日はあのとおりだと。そして、NHKのテレビにも出る、民放も出る、何も出る、やはりブームですよ。これはやはりこういうときにこのさらに乗っていかねばいけなと。そうすると、今サントラ盤にしる大体1万枚ぐらいが、普通サラウンドトラック盤はそうだそうですが、6万枚も出ているとかという話もありますし、やはりすごいものだなと。ヒットするときというのは、私もレコード会社にいたことがあります、急激に予想を超えてというところが、ここがまた一番おもしろいところで、これはやはりぜひさらに大化けて大ヒットにつながってほしいと思っています。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 結果として9月の議会はフラワー長井線議会、山形鉄道議会と言っても過言でないほど、いろんな形でいろんな方々から提案されていまして、またこの後も質疑があるようですが、いろんな方法を駆使して、とにかく言葉ではなくて乗らなければ何にもならないわけです、結果として乗らなければ何にもならない。幾ら理論を唱えても乗らなければどうにもならない。どうやったら乗っていただくか。手法の一つだろうと私も思っています。

私のホームページもリンクを張っているんですが、長井市のホームページにリンクが張られておりまして、私ちょっと思ったんですが、これは企画調整課長にお伺いしますけれども、いわゆる公式サイトでこれとこれのいずれかのバナーを張って別ウインドウで開くようにしてくださいというようになっているんですが、そうもなっていなかったんですけれども、これは許可をもらって張られたということですか。

大沼 久委員長 中井 晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 長井市のホームページでスウィングガールズの情報を書きましたのは9月1日ごろに載せさせていただきました。その時点ではまだ公式サイトで公式バナーをこれを使ってくださいというのが出ておりませんでしたので、許可をいただきましたロゴを使いまして、公式サイトに入るようにしてあります。

なお、考え方といたしましては、公式サイト用のバナー等は小さい入り口になっていますので、できるだけ目立つような形でということで、大き目の入り口を設けさせていただきました。

なお、一応許可はいただいておりますけれども、公式バナーが出ましたので、公式バナーに修正はさせていただいております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 あと長井を含めた置賜がロケ地になっていますという記述があるんですが、9月11日から公開されますと。もう公開されてかなり日数もたっていますので、「公開されます」ではなくて「絶賛上映中」とか、何か言葉を変えておくべきではないかなと私思うんですが、それはいかがですか。

大沼 久委員長 中井 晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 ご指摘のとおり、もう既に古い情報になっておりますので、できるだけ早急に改定をしたいというふうに思っております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 管理元は企画調整課ではないんですか、長井市の公式サイト。そうでしょう。市長がやっているわけではないですよ。なるべく早くそういうのを陳腐化しないようにしてほしいなと。かなり今アクセスありますので、ぜひお願いしたいと思います。

それから、きょうは7時から西置賜合庁の3階の何とかという部屋でスウィングガールズ応援隊の会議が持たれます。9月3日に続いて2度目ですけれども、私も案内をもらっておりま

すので行ってまいります、やはりこの会議というのは金やなんかで縛れない、自分たちでできることをそれぞれでやっていって、少しでも広げて、結果としてフラワー長井線に乗ってもらえればいいなと、そういうネットワークなんですよ。これは許可もいることと思いますが、さまざまな方が今ホームページを持っていらっしゃると思いますので、そこに公式バナーのリンクを張っていただいて、少しでもPRにつながるように考えていったらどうかと。もちろんきょうの会議でもそれを申し上げますが、そういう点については企画調整課長はどういう見解をお持ちですか。

大沼 久委員長 中井 晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 置賜応援隊ができておりますし、役所の方では今後の進め方を協議しました際に、商工会議所さんが中心になってやりたいというような申し出もいただいておりますので、役所側から声をかけるというより、会議所さんなり、置賜応援隊から声をかけていただくという方がよりいいのではないかというふうに考えております。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 あと一般質問で申しあげました白鷹町ではこういったチラシを入れる予定をしていますと。清水屋さんという前がロケ地になったんですが、そういうロケの写真を入れ込んで皆さん見てくださいなみみたいなことをチラシを入れるというのがあったようですが、長井市としても一度、前売り券を欲しい方はどうぞみみたいな隣の回覧しましたよね。白黒で何か全然目立たないやつが回ったわけですが、一つこの例えば、この間も言いましたけれども、オアシスという床屋さんがあって、それからアズム館があって、三菱自動車があって、それから白兔の駅があって、工業団地、工業団地はバスが通過しただけですから実際はありませんが、5カ所あるんです。そのほかにあやめ公園駅の

陸橋の下がロケの対象になったんですが、私もよくわかりません。それだけのものがありますので、河原のシーンですが、そういうロケマップを入れながら、やはりもう少しPRできる分についてはPRを試みたらどうかと思うんですが、それはいかがですか。だれに聞けばいいのかな。市長かな。市長でもだれでもいいんですけども。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 おっしゃるとおり長井線がバックにあって、しかも長井線の最も美しいのは西山を背景にしたところであって、白兔駅中心ですね。それから、道路とバスとあれで乗りかえるのも白兔駅。河原はどうもそうではなかったような気がしますね。松川の方に行ったのかもかもしれませんが、オアシスだとか、アズム館とか、三菱とか、いろいろあると思いますので、そういった情報を入れながら、このホームページならホームページでやると。私も例えば、下手な文ですがほっとトーク等でもちょっとPRさせてもらうとか、あらゆる場面でこのPRを、宣伝をしていきたいというふうに思います。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 JR東日本仙台支社の清水支店長と私は面識ないんですが、聞いた話でございます。この方は卒論の中で、バス路線への転換とかというのを書かれまして、非常に第三セクターに転換した当時から、こういった問題について関心が深いんだそうです。橋本町長も一度お邪魔をしてお願いをしてきたということが聞かされてきたんですけれども、その際、その清水支店長は、山形鉄道のために何か役立つことを私もしたいと、こういうふうにお話をなされたとお聞きしております。

ただ、山形鉄道側でこうしてほしいというものがありません、具体的に固まっているのが。だから、そこが問題なんですけれども。そこで市長にも行ってきてほしいなんてことでもない

んですが、こういうジャズナンバーでもあるんですが、A列車に乗っていこうという、この企画物が実はありまして、これであちこちを訪ねるという企画が今、具体化しているんです。これを置賜版をつくって、こっちに客の入れ込みを図れないかという話が今、徐々にできてきておりまして、こういうふうになっていったら、本当に具体的な客の入れ込み、あるいは利用の拡大につながっていくのではないかというふうに思ったりもしているわけなんです。

商工会議所の方が仙台支社の方にお会いしたという話も聞いているんですが、機会があればお願いもしなければいけないんでしょうし、こういった企画があればやはり長井市としてもだまっていないで、宣伝も手伝ってあげるし、努力もするということが、実際の利用拡大という点で言うと必要なことではないかなと思います。いかがでしょうか。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

+ 目黒栄樹市長 実は私も白鷹町長、それから南陽市長、それから高畠町長もご一緒だったかな。米沢の市長はいらっしゃらなかったけれども、仙台まで行ってきたんです。それは山形鉄道の観光PRについて、ぜひその清水支店長、非常に腰の低いというか、若いエリートなんだろうけれども、積極的な方だったと思います。やれることは全部やろうというような話で応援していただけたというような話になっておりますし、これは山形鉄道の若狭社長や高田専務も何度か行ったことがあるんだそうですから、こういったネットワークがありますから、そういったネットワークもぜひ利用しながら、お願いをしていきたいというふうに思います。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 ぜひそのようにこれからも努めていただくようお願いをしておきたいと思えます。

長井市のホームページでちょっと気になって

いるのは、リンク集というのがあるって、リンクを開いても山形鉄道というのは出てこないんです。山形鉄道は出てこなくて、米坂線整備促進期成同盟会が出てくるんです。これが出てくるんだったら、山形鉄道だって出てこなければいけないのではないかなと思うんですが、やはりこちら辺をもうちょっと工夫した方がいいのではないかなと。その他というところを開くと出てきますよ。このリンクではないところで開くと山形鉄道出てきますが、やはり大抵の場合はリンクから入りますよね。リンクが出なくてもホームページの正面の中にどこか1コマつけて山形鉄道とか、何かつけてそれが開けるようにしておくとかということも私は大事ではないかなと思いますけれども、企画調整課長はいかがですか。

大沼 久委員長 中井 晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 以前のホームページにつきましては、トップページにフラワー長井線の入り口を設けさせていただいておりました。新しくホームページを直しておりますけれども、その中では暮らしの項目という一番上のタグの左のタグになりますけれども、そこを開いていただきますとフラワー長井線の入り口も出てくるようにはしております。

なお、こういった形が一番入りやすいかとかというのは、これからもその修正を加えるなりして検討をさせていただきます。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 ついでに改革派自治体市町村サミットについてはどこも出てこないわけですが、これらについても市長が一生懸命取り組んだわけですから、それを察知してやはりリンクを張っておくと。見えるというふうにしておくべきだと思うんです。その点についてもぜひ検討を加えて、早急にそれを進めていただくようお願いをしておきたいと思えます。

最後まで時間を使わなくていいわけですから、

だんだん終わりますが、きのうウォーターボーイズ2というのが終わりました。教育長見られました。最後に五大櫓というのがあったでしょう。これをやるという裏話を私、以前見たことがあるんですけども、この五大櫓でフィナーレを迎えるわけです。そして、その時間の前にウォーターボーイズ全国大会というのがあったんです。これをちょっと私は見れなかったんですが、8校が出てやるというような新聞のあれがありました。これ見れなかったんです、私。そして、そのテレビドラマの最後に登場してくるのが、一両編成のローカル車です。そこに主人公の青年が、少年ですか、乗って行くわけですが、あれはまさにこのフラワー長井線一両列車とダブって見えるわけです。やはり矢口監督のねらっているものというか、感性というか、ある意味ではこういうものかなと思っていました。どういうドラマの展開になるかわかりませんが、ああいう形でかわいいスイングガールズというその文字の入った列車がテレビドラマの中で全国の茶の間に流れるということになったらおもしろいなとこういうふうに思ったわけなんです。教育長には今回答弁をお願いしていませんでしたが、最後に掲示板の中に何千という書き込みが毎日あります。その書き込みの中に、中学生なり、高校生なり、ぜひこの映画を見ていただくことが、音楽教育に大いに役立つのではないかとという書き込みがあったものですから、私なるほどなと思ったんです。こういう指摘、意見について教育長はどのようにお考えなのか、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

大沼 久委員長 大滝昌利教育長。

大滝昌利教育長 何人かその映画を見てきた生徒にも聞いたんですけども、大変見なれた風景があったり、やはりジャズなんかが出てきて大変興味のある映画だったというようなことを聞いていますので、この前もお答えしましたけ

れども、そういう映画が長井市で公開されるようになれば、その辺については私どもの方からも学校に働きかけをしていきたいというふうに思っているところです。

大沼 久委員長 9番、蒲生光男委員。

9番 蒲生光男委員 最後に市長にお聞きして終わりたいと思います。結果として利用拡大につながらなければ存続だって危ぶまれるわけですよ。幾ら行政、県にお願いすると言ってもこれには限界がありますので、やはりある程度の入込み客がいて、そこに乘っていただくことによって支援も受けられるという筋のものだと思うんです。したがって、フラワー長井線の関係については、地図からこれが消えるということのないようにしていかなければいけない。ひたすらそれを思っております。

ある人は奇跡というのは人の心の中にしか起きないと言っているようでありますので、市長の好きな言葉のようですが、そういう感じの。ぜひ観光とJR、あるいは長井線、ロケ地をめぐった商品化、さっき言いましたA列車で行こうみたいな感じですね。これと実際の乗客、入り込み数の増加を図るために、それぞれができることをそれぞれの立場でやると。無理なことをしても絶対だめですから。自分のできる範囲のことをそれぞれやるということが一番今、大事だと思っています。

ただ、これが時間をかけてもいいという代物ではありませんで、できるだけ早く機動性を生かして、フットワークをよくして早くやるということが今最も大事な局面でありますので、私はこの予算総括にあえてこの問題を取り上げさせていただきますけれども、根底では何とかこういったものをきっかけにして、フラワー長井線が黒字化になるように、一つの起死回生の策として、このスイングガールズのテレビドラマ化というものもあるのではないだろうか。プロジェクトX、これを夢見てこれからお互い

が取り組んで行かれるようお願いを申し上げます、市長の答弁をいただいて終わりたいと思います。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 まさに奇跡は人の心の中にしか生まれぬし、それを育てるのは人なわけでしょうから、我々がやはり熱く燃えて、参加して、乗って行ってということにみんなと一緒に取り組んでいかなければいけないと。テレビドラマ化は非常に大きいんです、確かに。映画のヒットなんていうものではなくて、テレビの20%というのは2,500万という話ですから、これはやはり大きいんですが、おっしゃるように映画のように1カ月ぐらいたスパパークホテルに泊まっていたくなくて、これはやはり制作費の関係でぐっと縮小されるかもしれない。セットも相当出てくるかもしれないし、テレビドラマ化ということになりますと、しかしその中でも矢口監督が言っているのは、東北のあの美しい自然だ。それから、それをバックにした長井線だと。そして、四季折々の風景だと。特に冬のところなんかは非常に感動した。それから、東北弁だと。山形弁だ、置賜弁だと。これにも感動したと。こういうことを言うておられるわけですから、この要素を入れていただきながら、テレビドラマ化まで引っ張っていきように、ぜひこの私も微力を尽くしたいし、蒲生議員からもぜひよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

9番 蒲生光男委員 終わります。

大沼 久委員長 次に、順位4番、議席番号2番 内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 私は去る9月8日の一般質問でフラワー長井線を存続させ、中心市街地の活性化を図るためにということで住んでよし、訪れてよしのまちづくりを六つの項目について質問し、それぞれ答弁をいただいたわけであり

ますけれども、市営バスについて、またフラワー長井線の利用拡大策としての全駅庭園化構想についての議論が余り深められなかったということで、一般質問に引き続きましてこの項目を質疑させていただきたいというふうに思います。

また、もう1点、総合型地域スポーツクラブの検討という点で順次質問させていただきたいというふうに思います。

まず、私はさきの一般質問で述べましたように、このたびの議案第56号に反対するものではありませんけれども、長井市には地域交通体形における公共交通機関の位置づけが明確にされていないのではないかといたしまして、その基本方針をお伺いいたしました。

市長並びに企画調整課長からは長井市の道路網を含めた地域交通体形の中でフラワー長井線は高校生やお年寄りなどの重要な足であり、公共交通機関の要と考えていると。しかしながら、このたびの致芳・平野・公立置賜総合病院線の市営バスの運行は以前から致芳・平野地区住民の強い要望があったもので、今泉から置賜総合病院のシャトルバスの見直しも含めて検討し、利用者の利便を考えて考慮して提案したものであるというふうに答弁があったと思いますが、そのように理解してよろしいか、もう一度市長にお伺いしたいと思います。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 基本的にそのとおりであります。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 ありがとうございます。それを前提といたしまして、これから自分の考えを述べさせていただきますが、今回の予算総括質疑での質問趣旨というのは、フラワー長井線を公共交通機関での地域交通体形の基幹に位置づけるとしたら、地域交通体形を確立していくには我慢できる不便さと我慢できない不便さがあるのではないかとということ行政はやはり市民にきちんと理解してもらわなければならないの